

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 046

(2022/23年度 USDA 米国農務省 5月12日発表)

【ハイライト】

① 穀物相場は UKR 問題/米国産地作付遅延等を受け更に高騰

シカゴ穀物相場は、2月のロシアのUKR侵攻を受けた小麦相場の暴騰局面から先月は幾分小康状態となったが、今月はUKR問題の長期化予想と米国中西部のコーン/大豆の作付遅延等の問題から既に歴史的にも高いレベルの相場が下記に示す通り全品目とも更に上昇基調に転換し始めた。USDA 5/9発表の5/1米国主要18州作付進捗率はコーン22%(前年33%、昨年64%)、大豆12%(前年24%)と大幅に遅れている。一方3/31作付意向調査ではコーン8950(昨年比4%減)大豆9100(4%増)小麦4740(1%増)万エーカー、単収予想はコーン181bu/大豆51.5bu/小麦49.1buと高く楽観的であるが、問題は4月以降の高温乾燥天候が長期化する不安が市場心理に影響を与えている。

② UKR 穀物の今年度生産/輸出は大幅減少が避けられない

先月号でも述べた通り、UKRは世界有数のコーン/小麦の生産/輸出大国であるが2月以降のロシア侵略により状況は非常に厳しい。別添「需給表」にもある通り侵略前と比較した今年度のコーン/大豆の生産/輸出数量見通しは、コーン(生産42⇒19.5/輸出27.5⇒9百万ト)、小麦(生産33⇒21.5/輸出20⇒10百万ト)と惨憺たる状況である。また、一部港頭にある穀物在庫はロシアに略奪/輸出(約50万ト)されているという情報もあり状況は混沌としている。UKRの穀物の品目別作付/収穫パターンは、コーン=作付4/5月⇒収穫9/10月、小麦=作付9/10月⇒収穫翌年7/8月であるがコーンはこの春の作付がどの程度か？小麦は今の生育状況と圃場状態がどうか？またオデーサ等の輸出港湾確保が焦点である。また、深刻なのは労力/肥料/農薬/燃料等の欠乏である。

③ 穀物需給の世界的逼迫が深刻化、期末在庫の実態は逼迫、コメが注目商品に

上記の今年度のUKR穀物生産/輸出予測を受け世界的な穀給逼迫/価格高騰が深刻化しているが、遂にインドは5/14自国の食糧安全保障の為に小麦の「輸出禁止」を決定した。世界の穀物在庫は下記に示す通り一見潤沢の様に見えるが、コーン/小麦については5-7割を市場に出ることのない中国が占めており、この部分を除外すれば期末在庫はコーンが95百万ト(在庫率8.0%)、小麦が136百万ト(同17.3%)と極めて脆弱な状況であることを認識する必要がある。UKR危機以降、小麦の代替として従来東南アジアのローカル穀物だったコメがにわかに注目され始めている(今月から需給表に反映)。

1、世界穀物需給の概要(大豆除く)

- ① 生産量：2,765百万ト(前年比±0、前月比1.0%減)
- ② 消費量：2,786百万ト(前年比0.1%増、前月比0.3%減)
- ③ 貿易量：487百万ト(前年比0.1%減、前月比2.4%減)

2、とうもろこし

- ① 生産量：1,181百万ト(前年比2.9%減、前月比2.5%減)
- ② 消費量：1,185百万ト(前年比1.2%減、前月比1.0%減)
- ③ 貿易量：183百万ト(前年比7.6%減、前月比7.3%減)

- ④ 概況：世界生産量は南米BRA/ARGが増産予想だが、最大生産国米国が天候不順により作付大幅遅延し367百万トと先月比14百万ト減少、更にUKRはロシア侵略により19.5百万トと昨年比半減し合計では12億トを大きく下回った。消費量は同様に12百万ト減少。貿易量はUKR港湾封鎖により3月33.5⇒4月23⇒今月9百万トとこの間25百万ト減少し全体でも2億トの大台を割り込んだ。期末在庫は305百万ト/在庫率25.8%。中国204(67%)米国35/BRA8百万ト。
- ⑤ 価格は\$7.92/Bu(前年\$7.72/Bu、前月\$7.35/Bu)と前月比\$0.57上昇。

3、小麦

- ① 生産量：775百万ト(前年比0.6%減、前月比0.5%減)
- ② 消費量：788百万ト(前年比0.4%減、前月比0.5%減)
- ③ 貿易量：205百万ト(前年比2.5%増、前月比2.4%増)
- ④ 概況：世界生産量はCANは大幅増産予想だがUKRは21.5百万トと前月比12百万トの大幅減(逆にロシアは5百万ト増)、AST6百万ト減となり全体でも4百万ト減少した。貿易量はUKRが約半減の10百万トとなり全体3百万ト減少。期末在庫267百万ト/在庫率33.9%と減少。うち中国は142百万ト(53%)。
- ⑤ 価格は\$10.97/Bu(前年\$7.74/Bu、前月\$9.85/Bu)と前月比\$1.12上昇。

4、大豆

- ① 生産量：395百万ト(前年比13.0%増、前月比12.5%増)
- ② 消費量：377百万ト(前年比4.0%増、前月比4.3%増)
- ③ 貿易量：170百万ト(前年比9.3%増、前月比9.5%増)
- ④ 概況：世界生産量は南米BRA/ARGが今年の早魃から回復したことと米国の作付面増等から前年比45百万トの大幅増加予想。消費量も上向き。貿易量は生産拡大を受け前年比5百万ト増加予想。生産/輸出比率は43%と突出。期末在庫90百万ト/在庫率24.8%。国別在庫米国8/BRA21百万トとカスカス。
- ⑤ 価格は\$16.56/Bu(前年\$16.21/Bu、前月\$15.83/Bu)と前月比\$0.73/Bu上昇。以上

世界の穀物・大豆等の需給

2022年5月12日
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2019/20	2,724	3,542	488	2,740	802		
	2020/21	2,794	3,595	500	2,791	804		
	2021/22	4月	2,793	3,592	499	2,795	797	
		5月	2,765	3,570	487	2,786	784	
小麦	2019/20	776	1,074	203	782	291		
	2020/21	779	1,071	200	791	280		
	2021/22	4月	779	1,070	200	791	278	
		5月	775	1,055	205	788	267	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2019/20	1,439	1,777	234	1,454	323		
	2020/21	1,501	1,824	248	1,490	334		
	2021/22	4月	1,502	1,823	247	1,493	330	
		5月	1,476	1,810	228	1,480	330	
米	2019/20	509	691	51	504	188		
	2020/21	513	701	53	511	190		
	2021/22	4月	513	700	52	511	189	
		5月	515	705	54	518	186	
大豆	2019/20	368	463	165	363	100		
	2020/21	349	449	156	364	85		
	2021/22	4月	351	454	155	362	92	
		5月	395	480	170	377	102	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	4月	292.15	1,210.45	182.11	1,197.15	197.00	305.46
	5月	309.39	1,180.72	176.84	1,184.97	182.70	305.13
アメリカ	4月	31.36	383.94	0.64	315.86	63.50	36.57
	5月	36.57	367.30	0.64	309.01	60.96	34.54
アルゼンチン	4月	1.18	53.00	0.01	14.00	39.00	1.19
	5月	1.49	55.00	0.01	14.00	41.00	1.49
ブラジル	4月	4.65	116.00	2.00	73.00	44.50	5.15
	5月	4.65	126.00	1.30	77.00	47.00	7.95
EU	4月	7.88	70.50	15.00	79.80	4.90	8.68
	5月	8.68	68.25	15.00	78.60	4.70	8.63
日本	4月	1.42	0.01	15.60	15.65	0.00	1.37
	5月	1.38	0.01	15.20	15.20	0.00	1.39
中国	4月	205.70	272.55	23.00	291.00	0.02	210.24
	5月	210.24	271.00	18.00	295.00	0.02	204.22
ロシア	4月	0.75	15.23	0.05	10.90	4.50	0.63
	5月	0.63	15.50	0.05	11.20	4.30	0.68
ウクライナ	4月	0.83	41.90	0.02	13.20	23.00	6.55
	5月	6.77	19.50	0.00	9.20	9.00	8.07

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	4月	103.11	350.72	152.92	361.88	155.29	89.58
	5月	85.24	394.69	167.12	377.44	170.01	99.60
アメリカ	4月	6.99	120.71	0.41	63.47	57.56	7.07
	5月	6.39	126.28	0.41	64.78	59.87	8.43
アルゼンチン	4月	25.06	43.50	2.20	47.21	2.75	20.80
	5月	19.30	51.00	4.80	48.30	4.70	22.10
ブラジル	4月	29.40	125.00	0.45	50.50	82.75	21.61
	5月	21.36	149.00	0.75	52.10	88.50	30.51
中国	4月	34.48	16.40	91.00	108.70	0.10	33.08
	5月	30.75	17.50	99.00	115.59	0.10	31.56
EU	4月	1.49	2.74	14.55	17.42	0.23	1.13
	5月	0.93	3.00	15.00	17.93	0.22	0.79

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	4月	290.67	778.83	197.15	791.08	200.10	278.42
	5月	279.72	774.83	201.26	787.52	204.89	267.02
アメリカ	4月	23.00	44.79	2.59	30.56	21.36	18.45
	5月	17.82	47.05	3.27	30.21	21.09	16.84
アルゼンチン	4月	2.12	21.00	0.00	6.45	14.50	2.18
	5月	2.33	20.00	0.01	6.55	14.00	1.78
オーストラリア	4月	4.33	36.30	0.20	9.00	27.50	4.33
	5月	4.83	30.00	0.20	7.55	24.00	3.48
カナダ	4月	5.67	21.65	0.60	9.50	15.50	2.92
	5月	2.92	33.00	0.60	9.10	24.00	3.42
EU	4月	10.69	138.42	4.50	108.25	34.00	11.36
	5月	13.61	136.50	5.00	108.50	36.00	10.61
中国	4月	144.12	136.95	9.50	147.50	0.90	142.17
	5月	141.92	135.00	9.50	144.00	0.90	141.52
インド	4月	27.80	109.59	0.03	107.91	8.50	21.00
	5月	21.35	108.50	0.03	105.00	8.50	16.38
ロシア	4月	11.38	75.16	0.30	41.75	33.00	12.09
	5月	12.09	80.00	0.30	42.25	39.00	11.14
ウクライナ	4月	1.51	33.00	0.10	10.00	19.00	5.61
	5月	5.61	21.50	0.10	11.20	10.00	6.01

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

※5月発表のUSDA上の4月データはN/Aでしたが、先月の数字を転記しております。

世界の食品産業と穀物需給(3)

- ① 「世界の食飲料企業」については先月号でFood Engineerig社の2021年「Top100」を売上高順位で整理したが、今回はそれを**国別/業種別/規模別**に下表にあるように再整理して分析したい。ただこの「Top100」は経営内容が一定開示されている食料素材取扱や製造加工会社を対象であると思われるが「食飲料企業」の事業分野区分等については議論が残る。例えば、農業/食品分野を中心に8事業分野売上高7兆円超と言われる**タイのCP(チャロン・ポカパン)グループ**、穀物メジャー「ABCD」の中でABCは記載されているがその一角であり売上高1,200億ドルと言われる**Dの(LDCルイ・ドレファス)**、米国最大の農協連合会CHSは記載されているがそれ以上の売上高を持つ**全農**(米国子会社ZGC/CGB社含む)、或いはその他多くの企業が対象になってもおかしくはない。
- ② それはさておいて今回の「Top100」の分析に戻ると、まず国別で言えば、米国が36社と全体の1/3強を占め圧倒的な存在であり、かつ業種別には穀物需要に直結する**Tyson/ADM/Cargill**等の穀物9/食肉4/乳製品3社と**Pepsico**等飲料5/酒類4社など世界の**各業界におけるリーディングカンパニー**が軒を連ね、その売上高合計は約**5,520億ドル(66兆円)**と**世界全体の約42%**を占めている。また、規模別にみても36社中9社が200億ドル以上と全体の半数を占めている。**日本は米国に続き17社**と数では2番目の地位であるが、その中心はサントリー等の酒類4社が牽引し日本ハム/明治HD/山崎パン等、食肉2/穀物2/乳製品2社などが続いている。その売上高合計は約**1,450億ドル(17兆円)**と**11%**を占めているが米国に比べその産業としての裾野と規模の格差は大きい。
- ③ EU諸国は、国別には下表に示した通り企業数は多くないがトータルで見れば**売上高700億ドルを超えるフランス/オランダ/スイスの3か国**とその他含めて**28社/約3,520億ドル(42兆円)**とシェア27%を占める大きな食品産業群を連ねている。特にフランスは伝統的な乳製品業界の雄**Danone**等6社、オランダは酒類世界ブランドである**Heineken**等3社、またスイスは世界最大級の総合食品会社**Nestle**が存在している。こうして**EU全体の食品業界の裾野は広くブランドとしての世界的商品認知度は深い**。あと、忘れてならないのは南米の**食品生産大国ブラジル**である。同国は「Top100」の中では3社と数は少ないが**JBS**は売上高約500億ドルで「Top100」では世界3位、食肉業界では米国Tysonを凌ぎ世界最大である。また、**Marfing G**も食肉売上高130億ドルと世界4位に付け、同国は**食肉業界においてその存在は際立っている**。
- ④ あと特徴的なこととして注目しておく必要があるのは、**穀物メジャー**であるADM/Cargill/Bungeの3社と米国農協連合会であるCHSの各社全体売上高に占める食品(Food)比率が先月号で示した全体平均81%(1,316/1,620)に比べ極端に低いことである。例えば**ADM=55%(354/644)**、**Cargill=28%(324/1,146)**、**Bunge=28%(114/414)**、**CHS=61%(172/284百万ドル)**であり、その格差は歴然としている。この背景は4社とも穀物+その食品加工品の他に農業関連資材である**肥料/農薬/燃料**や**その他サービス事業の比重**が高いこと等があげられる。更にその中でも食品比率の低いCargill/Bungeについては**鉄鉱/石炭等の資源事業**あるいは**船舶事業**等含めて事業が極めてグローバル化・多角化していること等がその背景にあげられる。(続く、次回は穀物メジャーや食品産業と世界穀物需給との関連を掲載予定)

<世界食飲料企業「TOP100」の国別・業種別内訳と金額>

	総合	穀物	食肉	乳製	飲料	酒類	その他	計	FOOD計(\$m)
米国	3	9	4	3	5	4	8	36	551,800 (41.9%)
日本	2	2	2	2	2	4	3	17	145,538 (11.1%)
フランス	1	0	0	4	0	1	0	6	76,316 (5.8%)
オランダ	1	0	1	1	1	1	0	5	70,164 (5.3%)
ドイツ	0	1	0	2	0	0	1	4	28,397 (2.2%)
中国	0	0	0	2	1	1	0	4	35,801 (2.7%)
イギリス	0	0	1	0	1	1	0	3	35,678 (2.7%)
デンマーク	0	0	1	1	0	1	0	3	30,378 (2.3%)
スイス	1	0	0	0	0	0	2	3	78,457 (6.0%)
ブラジル	1	0	2	0	0	0	0	3	71,461 (5.4%)
その他	3	2	0	2	2	3	4	16	192,322 (14.6%)
計	12	14	11	17	12	16	18	100	1,316,312 (100%)
FOOD計(\$m)	190,296 (14.5%)	192,317 (14.6%)	187,502 (14.2%)	212,201 (16.1%)	177,417 (13.5%)	203,683 (15.5%)	152,896 (11.6%)	1,316,312 (100.0%)	

<「TOP100」の国別・規模別内訳>

	Over \$200m	\$100m~\$200m	\$70m~\$100m	\$50m~70m	\$30m~\$50m
米国	9	7	6	6	8
日本	1	3	6	3	4
フランス	2	0	1	3	0
オランダ	2	1	1	1	0
ドイツ	0	0	2	2	0
中国	0	2	0	1	1
イギリス	0	2	1	0	0
デンマーク	0	1	2	0	0
スイス	1	0	0	1	1
ブラジル	1	1	1	0	0
その他	2	4	6	2	2
計	18	21	26	19	16

注1) 表中の金額単位は百万ドル

注2) 文中の円貨換算レートは \$ 1 = 120円としている